〔大正五年十二月二十二日第三種郵便物認可〕 昭和九年十二月七日 磐城新聞 〔金曜日〕 第四千九百十六號 〔一〕

夕刊 磐城新聞 十二月六日發行
發行所 磐城新聞社
日曜祭日翌日休刊

鄕土の史的時事解説

双葉郡の熊宮と軍用金信否 所謂南朝皇胤崇拜の作傳?

鮫川漁史

1

本月二十四日、双葉郡熊町村の某氏が自ら畏れ多くも南朝の皇胤熊宮信稚王の裔と稱して、是れが證據史料並に十萬兩?の鉅額な軍用金の埋秘等を得るべく、同村大字夫澤小字熊ノ澤地內、俗稱金の森に在る、周圍約四十尺位の一古塚を發掘し、猶之に東京の史家が態々調査に來檢したことは其の村以外に諸方にまで甚だ驚異的興味を牽いたかと思ふと、尋いで二十七日には又同郡浪江町大字川添の正西寺(寛永開基)墓地から長こき御紋章鐫りの石塔四基が發見、撤去を命ぜられ又同日、同郡新山町大字細谷の齊藤山と俗稱する中腹の岩穴よりは諸種の刀劍、土器類が發掘されたなどで更に鄕土の人々は言ふに及ばず、鄕土研究家乃至は史家と云ふ人達にまで好奇の感を與へて今尚其等に對する話題が盛んであるといふことを、予は既報の各新聞に鄕土の人々から只今聞かされてをる所で最も怪味を受けた一人である

此等の內、首めの熊宮並に十萬兩?の軍用金埋藏に就いて小述し、謂はゆる諸國、殊に近年常磐方面には往々南朝皇胤奉戴與下、忠臣の子孫云々に類する荒唐無稽の例、乃ち地方の舊家(概ね庄家、名主役を勤めた者、今の町村長に監督される區長の資格)と稱する者は、近世中其の先祖が密かに作爲した系圖、家傳等を現代に持ち出して言ひ振らすものと、又斯る家にの潜みに對して、新たに材料を之に配秘し何等かの目的で昇ぎ廻はるものと、右の熊宮御關係說は全く同種のものであるといふことに論結してみよう

該の熊町村の某氏が唱ふる熊宮御云々及び其の他の附說に對しては、傳說であるか史實であるか、其の人が所持の記錄や之に恰當するといふ其の古塚なるものも實見しないゆゑ、此に詳論するには聊か不備の點あるが、當時の常野奥州並に中央の形勢者に想察して是れが信否の批判を試みよう

抑々南山の御系譜中には熊宮などと稱し奉つた王子の御名は見出されないのは言ふまでもないことで、又今より約四百五十年前に斯る皇胤が、其の熊ノ澤に御潜居する理由もなかるべく又之を奉じたる者などは存在しなかつたらう

其の四百五十年前と言へば、室町幕府の足利九代義尚の在治に當り、即ち文明年間で、縱んば國史上では既に南朝の皇胤は絶え絶ゆやうに記載されてをるが、尚其の御遺裔らが諸州に殘るといへ、文明前後には奥州の標葉郡(今の双葉郡熊川以北)澤村(熊澤の古稱といふ)に、苟しうも南朝云々と申される方など住みまゐらせる筈なく、譬ひ之を秘して唱へ表はさなくとも、さうした關係者が住居するに足る所ではなかつたらう。然らば其の理由はどこにあるかと反問が起きよう

講談 戸隱奇譚 山の怪秘 (57)

丸山寛雄作 眞木浪畫

圓岩の二人(八)

『や、これは明かに人間の血と思はれる、が然し、細かい粒々の混じるのは果して何であるか、しかとした正體は摑めないが、人の血汐に何ものかを加へて製したものでござらう』

平七郎は、一通り調べ終つて、その手を瓶の椽へこすりつけた

太郎の視線も、彦次の視線も一様に疑問の液體に注がれてゐる

『彦次どのとやら、この怪しげな靈藥をわかつ不動堂とやらは、ここからどの位の距離にあるかな』

平七郎は、きよとんとしてゐる瓢きん面の彦次に尋ねた

『二晩もかゝれば大丈夫かと思ひます』

『二晩と……すると三日道中しなければならぬな』

『刈馬様、探索にお出でなされますか』

『明日發足致す故、道順さへよければ立寄つて正體をあばき出して見るのも面白いと思ふ』

若い血汐の漲つた平七郎であるが、しかし傷養生のためとは言へあまりに山の靜けさになれて、心は弛緩し切つてゐる探つて見たい氣持ちがムズ〳〵と頭をもたげて來たのも無理はない、たゞ一つ、心にかゝるのは寺寶の行方だけだがこれだけは徒らに心を焦らせても効はない偶然を待つより仕方はあるまいと思はれた、それに又、犬も歩けば棒にあたると言ふこともある歩かないでたゞこの靜寂な山の自然に埋まつてゐて何の手がかりが摑めるものであらう

『では、拙者は明日發足致す故、少し位の廻り道にならうとも、その不動堂とやらにまゐり、果して諸病に効くまじないであるかを探索して見たいと存ずる、その上で眞偽が見分けついたらこれなる彦次どのを知らせに參らすことに致さう』

『それでは、刈馬様、探りに行つて御覽になりますか得てそのやうな場所には危險がありますから、隨分と御氣をつけなされ』

羽尾太郎は言ふ

『有難う、またその祈禱とやらも一概に効は無いとも申されぬ、とにかく一度探索致すのも興あることだ』

『では、刈馬様私が明日、御案內致しませう』

瓢きん面の彦次約束したその夜、山から歸つた一味の者達は、平七郎が明朝發足すると聞いて盛大な別離の宴を開いた、幸ひ山で獲れた名も知れぬ鳥の肉、山うど、山ぶきなど膳部の上は山の珍味で充たされた

人々は、自分達の生活を理解してくれた、この若き侍刈馬平七郎のために飲みに飲んだ

醉つたまぎれに鄙びた歌を唄ひ出すものもあれば、逆立ちをして見せるやうな亂暴なものもある、顏は何れも毛むくぢやらで獰猛に見えるが、醉へば稚氣滿々たる山の人達であつた

愛すべき群だ、家だ

平七郎はこの奇異な團らんを羨ましく思つた

自分なぞは、なまじ俗界に身を置くがために責任だ、恩だ、敵だと數へきれぬ下らぬ事を知らねばならない然るにどうだ、この下界と交渉も絶つた太郎一味の人々の樂しさ、長閑さ、その顏にはどれにも屈託や苦勞が見えぬ、異端視はされてゐるが、實に超世俗的な惠まれた人々であると思つたたゞその中で一人、馳走を運ぶ役目をしてゐたヤマトだけが、胸の苦悶を、その白い頰に現はしてゐるのだけが目についた

潮聲硯静抄帳

○課題吟

『野分』 赤羽松堂選

野分晴れてするどき影の星一つ　鶴歩

汽車過ぐる野分のガードくぐりけり　柴子

校庭の旗竿ゆるる野分かな　茂堂

風呂の烟り低く流る〻夕野分　花堂

追章　松堂

一潟の船舫ひゐる海野分

野分時倒れし小菊支へやる

寄贈書目

△ローマ字故正木中將記念號(一部二十錢、東京市麹町區丸の內三ノ一二ローマ字ひろめ會)

社會の今昔

12月7日

△官吏恩給令を制定す(明治一七)△聖上青森北海道の凶作地へ　從を御差遣あらせらる(昭和六)△株式の値上り五億圓を超え三年來の證券景氣出現す(同七)

○

山寺の園爐裡の榾火おとろへて、霞夜はさむくふけ渡るなり　齊藤正俊

狂ふ濤に死せるが如し冬の岩　陽光

磐城歌壇

新妻久滿夫選

『感懐』 佐藤清長

○いつよりか思ひきたれる言葉なり、もの〻はづみにゆくりなく言ふ

○ひねもすを風吹き居りて近々と、身に沁み來る寒さを覺ゆ

○ゆくりなく見いだしたるは亡き友の、病ひを泣きし手紙なりけり

◎雨模様の空をなだる〻雲あしの、低きはすでに降り居るならん

○黄に咲きし花豆菊は傾むけり、寄生木を添へて形調ぶ

○有難やかばかり凪ぎし春日和、母は障子を張り替へて居り

小評　作者の詩のうの裡には淡々として盡きざる感傷味を湛へてゐる。この感傷を如何に生かすかと言ふことが肝要である。表現に於て充分注意を拂つたならば安價な弊に墮ちる事はないであらう。四首『雨模様の空』は集中の秀歌である。次の『黄に咲き…』の下句『添へ木をくれて』とした方がよい。寄生木は別である。次の『有難や』は考ふべき點多し

運命はかくも

人生を慘酷に弄ぶ (2)

首筋にある刀痕は謎?

=藤原義江の涙のあご=

異國の人の血をうけて生まれ出た孤兒?生んだ母も其の關係者も決して喜こばなかつたばかりか出來ることなら〇して葬事:ーケーにしてしまいたかつたのが其のときの周圍の事情であつたやうだ。生ましめた父も生んだ母も彼の誕生を祝つてくれる心持ちは微塵もなかつたであらう。恐っく母の乳房さへ含んだことがなかつたであらう彼。それからといふものは九州若松に里子?捨て子か?。次ぎには大分縣杵築町の大きい料理屋に引きとられ、それからお寺の小僧に、それも束の間、今度は鍛冶屋の養子で向打ちに、それから商店の小僧に、會社の給仕さんに昇級し、次ぎに通信社の商家達夫、新劇團の下廻りになつて辻音樂師の仲間入りをした、この頃淺草オペラが流行して役者になることになつた。そうして今は世界的に成長して來た彼こそ我等のテナー藤原義江氏であつた。義江氏の過去は一頁と雖へども、涙なしには讀まれぬ慘酷な運命の內に生活と戰ひ續けて來てゐる

廣告
自動車ノ御用ナラ何デモ御仰セ付願ヒマス。

驛前 昭和タクシー
電話 三四三 三四〇番
一、充實セルタクシー部
一、高級大型團体遊覽車
一、乘合 豐間、江名、中之作方面 小名濱直通 靈峯閼伽井嶽
一、貨物一般運送

NAKANO NAKANO NAKANO NAKANO
防寒洋品と●●●
特選 ショール
……常に逸品……
中野洋品店 平 電 三五三

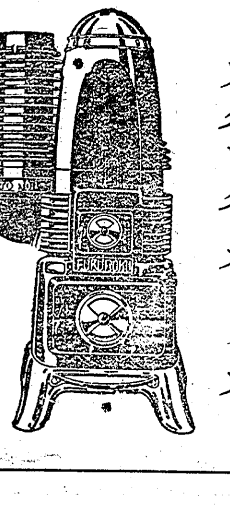
謹啓 初冬の候各位益々御清祥の段奉大賀候。陳者弊店儀今般平町二丁目通り中野洋品店向側へ移轉仕り候尚既製品豊富取揃へ申候間倍舊の御愛顧御引立賜り度先は移轉御通知旁々御案內申上候
昭和九年十二月
平町貳丁目通り(中野洋品店向側)
高島屋洋服店 電話三八六番

忘年會 新年會
料理にた酒に奉仕に御安心のゆきます樣心掛けて居りますれば何卒御下命をた願致します。尚小座敷も七日より落成いたします故御利用願ます。
谷口樓 電話一五六番 八番

冬呉服大賣出し
十二月一日より十二月七日迄
この良品でこの安値!眞にお買徳の冬呉服!
この賣出し大奉仕品豊富!
御婚禮衣裳大提供
おめとつ品
新柄モス着尺 二圓八十錢
紡績夜具地 八十八錢
ニコ〳〵絣新柄 九十五錢
本場銘仙 二圓八十錢
新柄秩父夜具 三圓
赤札特賣品
七五三祝着特賣
友禪縮緬、富士絹友仙、新柄友仙モス、中巾丸帶御袴、四ッ身紋付
三井呉服店

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山腦病院 電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

毎度各別の御引立に預りまして難有御禮申上ます。扨て燈下親しむの秋明るく經濟なマツダランプは自十一月十五日至十二月卅一日の期間中一ケ御買上毎にマツダ會聯盟名入の粗品を差上げることに致しました。これは前にも申上げました通り再製不良品を安く販賣するものがありますので之等と區別して戴き度い心根で御座います。宜敷此の機にマツダランプの眞價を御認め被下樣併せて御願致します。
東京電機株式會社
マツダ會聯盟



完全燃燒のため煙筒掃除の要なき
日本一の……
フクロク・ストーブ
御申込次第カタログ持參御伺ひ致します。
發賣元
(久)釜屋商店 平町五丁目 電話九番
(ツ)阿部石炭商店 平驛前 電話三七番

産科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 玄番彌一
入院隨意 病室完備
平町新川町十九番地
木村病院 電話一六四番

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋
福島縣平町
山崎合名會社
電話(營業部一〇番 本店二七番)
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体溫器 寒暖計
◎秤ノ取替 緒・垂 糸・修繕 致シマス
關內藥局 電話四〇番

耳鼻咽喉科 專門
平町南町一六番地
(入院隨意 病室完備)
大和田醫院 電一七〇番

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町(元眞木辯護士跡)
增田耳鼻咽喉科醫院 電話四八二番
(入院隨意)

大平町が 辿る經濟の過程は？
吏員の昇給と賞與と
師走の町政側面觀

『豫算とは財政經驗、換言すれば前年度のバランスに基いてなされた蓋然的な收支の見積に他ならぬ』(マルクス)とは云へ、それは政治的に於ては議會――即ち國民代表。小にしては町村民代表に對する承諾要求書であり、その協贊を經た後は協贊の主旨を內容とする而も法律的意義を有する行政上の命令書である

×

議會の協贊を經た後の豫算は法律と同樣に立憲的なものとせられ、國民の意志として直に執行權的意志となる、これが豫算の公布である、豫算の款項に規定された金額がその目的に使用せられ、それの記錄は決算となつて議會に提出される

×

通ひ帳で取つた樣な談議は以下次號として――今年も既に暦年の年末、年度を剩す處三つきそこ〳〵に迫つたが、今や年度の終末期に入つた平町の財務行政は果して如何なる過程を辿りつゝあるか？、蓋し大なり小なり夫々擔稅者たる一個の平町民として全然關心の外に放置すべき問題では無い

×

なにがし學者の定式化した豫算の技術上の原則は一豫算は公開的で無ければならぬ　二、豫算は全部的にして且つ統一的で無ければならぬ　三、使途が明確でなければならぬ　四、收入は正確に適合せねばならぬの四つであると云ふ

×

町の豫算經理に就ては町民の敢て容喙すべきで無いと云つて了へば其れ迄であるが、官衙公署でも、銀行會社でも、今月が昇給月である以上、町役場でも恐らく吏員の昇給が行はれる事であらう、問題の重點は此所である、即ち平町の豫算編成技術なるものが高級助役問題と云ひ町稅の滯納累加と云ひ果してよく前記四原則中の何ものかに適合してゐるかどうか

×

ボーナス必要、昇給可なり、町民が凝視せんとするのはたゞ其の內容が什麽ものであるかの點であらう

漸次擴大し行く 平町の取引範圍
驛收入から現勢を覗く

平驛去月中の乘降は乘三九、一四六　降三七、五二六　收入一九、二〇〇圓一八錢で前年同期に比し乘二、〇六九、降一、三七一を減じて居り乍らその收入は遠距離旅行者の增加、短距離旅行者の減少により逆に二四八圓六九錢を增加し、而も最近の平町が近接地との取引を減じ大都市との直接取引を增しつゝある爲此の傾向特に顯著なるものがある

右に關し驛當局では

水戶あたりは旅客一人當り一圓以上に當つて居るため人員は少くとも收入が多い、之は大都市の特徵で、それに比し平では平均五十錢內外である、然し最近の傾向は喜ばしい限りだ、この調子が永く續けばよいが云々

と語つて居る

一町二村水害豫防組合 舊債償還協議
十二日平町會議事堂で

平町、飯野、內鄕の一町二ケ村より成る水害豫防組合は事業完了により過般來解散の氣運になつたが去る大正八年以降の敷地買收費として三千五百六十九圓八十九錢の負債があるので來る十二日午後一時から平町會議事堂に打合會を開き該負債金整理に關する解散を協議する

各村併合に贊成
第一回協議會は來春三月
平町の都計展開

平町の都市計畫は過般縣より地方職員橋本技手が來平隣接合併各村と懇談の結果何れも合併に贊意を表したので地方委員會に於ても愈々明春三月中第一回の協議會を開く旨此程町當局に通牒あつたので箱崎技師初め分方面の確實な基本調査に着手した

入山餘技展
明一月中開催豫定

入山炭礦では從業員が日常趣味として製作した書、畫、彫刻、手藝、寫眞等の餘技展覽會を明年一月中旬頃台の山倶樂部或は自治會館に開く

愛谷護岸復舊着工
堤の內住民救はる

平町字堤の內愛谷江筋側の町道が同江筋護岸コンクリートの築堤崩壞のため交通支障を來したので平町及江筋組合に於て過般來復舊工事方を縣に運動中愈々延長二百十八米を千九百六十圓(內縣補助九百八十圓)で施工する事に決定したので平町でも六百八十六圓を寄附近く着工する筈であるが現在の堤塘より約五寸を高めこれに伴ひ河岸の道路も面目一新される筈、尙好間村大字愛谷地內右岸約二十米も改修されると

入山炭鑛 今月行事

入山炭鑛に於ける今月中の行事左の如し

九日　弓道月例會　職員圍碁大會
十五、六日頃　素謠稽古會
二十二日　職員撞球大會
二十三日　青年團幹事會　女子青年團幹事會
十二月中の木曜　日曜日
尺八練習　從業員慰安映畫會　入退營歡送迎會

無限に伸びる觸手 平からアメリカへ
平局の國際通話區域擴大

臺灣、滿洲、朝鮮、マニラ等西から南フイリッピン等ズン〳〵とその觸手を延ばした躍進都市平局の電話は遂に九日からは遠くアメリカと通話し得る事になつたが今度は來る十二日から樺太と通話し得る事となつた、右通話料は

連絡料一通話七十五錢の外、首尾料內地は稚內より百粁以內は十二錢五厘〳〵二百粁以內三十七錢五厘二百粁以上は百二十粁以內を增す每に二十五錢增樺太は大泊を起點とし右と同樣で平局からの通話料等は追つて發表ある筈

增線に惠まれた 最近の平局電話
待合時間著しく短縮さる

過般從來の二回線が三回線となつた東京、二回線に重信線を加へた水戶線等平局よりの通話は非常に利便となつたので昨五日以上の回線增加以來最初の市外通話待合時間を驗した處

區分		最長	平均
東京	普	一九七分	五一
	急	四三	一一
水戶	普	二四	一〇
福島	同	三九	一二
郡山	同	六五	二〇

等で正に平局電話界の一大革新と謂へよう、而も右は何れも通話の輻湊振りの普通時に於ける標準午前七時以前午後六時以降なら右より遙かに通話し得る事勿論である

青年學校義金送付

平町磐城青年學校では過般來生徒のマッチ行商により凶作地義捐金を募集中であつたがこの義金二十圓を纏め今六日全町役場に委託した

仕事が豐富で 威勢良い勞働市場
去月中の平紹介所成績

平職業紹介所に於ける去月中の動態は

(求人)男一八〇　女二七　計二〇七名(求職)男五五　女五　計六十名

で凶作地救濟の聲で炭鑛其他からの求人數も增加した關係から前月に比し求人一四三名、求職六名の何れも增加を示し、更に昨年同期に比すれば求人一二三名增求職二四名の減、就職率男三十名の多くは土木日雇商店雜役であると

都會の複線
街頭より凝視した都人士の凶作關心

早大勿來會員　小林忠司

四

新橋藝妓の客なのには驚く。淺草藝妓は大抵入れて吳れたが、新橋には百人位通つた中唯一人だ。東京、關西の出身が多い故か鹿兒島小原良節の喜代三姐さんも素通りだ

サラリーマンも少しも入れて吳れぬ。偶に同縣人とか早大出身者とかが入れるのみ

學生では早大、慶應が九割で他はほんの少し。女學生は殆んど同情して吳れた

總じて寄金して吳れたのは男よりは女の方が矢張り多い

殊にお婆さん等は百パーセント。又十才位の子供が五十錢位惜しげもなく入れて吳れるのも銀座なる哉である

二人連れは全然駄目。變なもんではある

吾等が行人に呼びかけて居るのを不愉快に思つて厭に鹿爪らしい顏をして通つて行く人があるのは腑に落ちぬ

腑に落ちぬのは東朝と東日の、義金募集額の競走だ何も兩雄並び立たずとは言へも少し紳士的にやつて貰ひたい。この事については文藝春秋十二月號に出て居るから止めて置く

第二日目は初日より十圓餘り多く。三日目は又十圓位多い。銀座では最高十二圓。最低一圓しか集めぬ者も居る

東北救濟學生聯合會で總額千三百圓餘を集めた。今時街頭募集も古い手であるが、塵も積るとは本當らしい。殊に磐中出身者の運動は最も目覺ましく募集金額も最高だつた

意義ある運動をした後の輕い感激と興奮とを覺え、『都の西北……』と磐中校歌『峯は秀づ……』とを歌つて時計台を後にしたのは午後十一時　(完)

往き交ふ人の足 半ば宙を飛ぶ
師走氣分漸く濃厚

行く人の足半ば宙を飛ぶ師走も愈々六日の聲を聞いては、之れからグン〳〵暮れ氣分に入つて行くわけ、極度の緊張を物語る人の目色も百人百樣の變化を見せて世を擧げて匆忙と興奮の坩堝である。破格の廉價を掲げた冬衣大賣出し、七五三祝着の特別大奉仕等、等。黃、白、靑、紫。色とり〳〵のチラシは街頭の寒風にさらさるゝ小店員の手や新聞の折り込みで各家庭の購買心を唆り、何うしても買はねばならぬ樣に仕向けてゐる、その內に各方面のボーナスも出やう、之れが果して各商店の景氣に如何に反映するか、目まぐるしい節季師走の物凄い光景は颯々たるベルトの唸りに捲き起される旋風裡に展開を見せてゐる

書方入選受賞

平町各小學校では明七日朝會に過般大津小學校に開かれた同築港記念全國書道展覽會入賞者の賞狀賞品授與式を行ふと、又平第二校では去月二十八日双葉郡木戶村に開かれた双葉書道會主催全國書道展に各組一名宛作品を出陳し最優良成績で金牌を授與された

賽錢を叩く
神罰覿面檢擧さる

ルンペン東京市芝區芝口三丁目生れ泉鹿之助(五三)は去月二十三日午後一時頃平町長橋町尼子神社より前後四回に亘り賽錢六錢を失敬した事發覺此程平署に御用

石井所長視察

石井福島地方裁判所長は同中澤監督書記を同伴昨夜來平、今六日は早朝より平區裁判所の事務を視察同夜歸廳した

吸殼六反歩を燒く
永戶の山火に二名を送檢

好間村北好間字三反田二八日雇藁谷子之吉(七)同久保田三九同佐藤平兵衛(六二)の兩名は去月十六日午前十一時半頃永戶村大字合戶字入遠一七二所在同村草野鐵太郞所有の杉林で作業中その內の誰れかゞ捨てた煙草の吸殼から發火折からの北風に煽られて杉丸太及杉立木面積六反歩(損害約三百圓)を燒失、今六日平署の取調べを受けたが火因の責任者が曖昧なので先づ被疑者として送檢する筈であると

平町水道委員會　來る十午後一時から開き片倉製糸組合水道使用料に關し協議

中村敎諭出發　平商校中村敎諭は今六日愛知縣及び長野縣學事視察に出發した

磐女操行査定會　磐城高女校では來る十二日より四日間行ふ

同情週間打合　平町助成會では十一日午後一時から委員會を開き同情週間に關し打合せを行ふ

第三區女青協議　郡第三區(平町外七ヶ村)聯合女子青年團では秋季總集會開催に關し明後八日平第二校に評議員會を開くが大体來る二十一日第二校に於て開催の豫定であると

中島氏頌德碑竣功　既報一元玉川小學校長中島淸海氏の頌德碑竣功式は明後八日午前十時より同校庭で擧行すると

小濱浚渫進捗　植田町小濱港の浚渫作業は其後種々の關係で捗々しくないので更に潛水夫二名を雇ひ入れ遲くも明春三月頃までには完成するものと觀られて居ると

平窪村より

俵米品評會　產業組合主催で來る十五日開催

秋季消防檢閱　七日小學校で執行、梨本大日本消防協會總裁宮殿下の令旨奉讀式を行ふ

矢吹氏の陰德　下平窪矢吹龜作氏は同村磐城橋側に交通者の利便を圖り街燈を十六年間點燈して近隣者より感謝されて居る

長瀨家寄贈　下平窪長瀨廣吉翁の死去により遺子三吾郞氏が小學校へ雨傘五十本を

陪審員候補　此程村役場で抽籤により左の如く決定　薄葉馬次郞、大須賀庄之助、松本金市郞、小野甚平

青年訓練開始　去月中農繁のため休訓中であつたのを七日より、尙公民夜學校は經濟更生計劃に關する記帳生活を主とした農業科に主力を注ぎ三日より

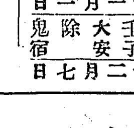
入營兵決定　第二次入營者左の如し

(一月二十日入營)步二九鈴木勝正、戶田元善、福田久雄(一月十日)海軍橫須賀航空隊加澤治(六月一日)步七三福田幸三郞、松崎政吉、松崎信雄

丹野氏葬儀　滿洲武裝移民團に參加中病死した丹野甚平氏の遺骨は去月二十二日來村、同七日同村安養寺で葬儀施行

七日

日出　六、三六　月出前　七、〇八
日沒　四、二八　月沒後　四、四〇
滿潮　前六、三〇　後四、三五
干潮　前一一、三五　後一一、五五



舊十一月一日
金曜　壬子　大安　除　鬼宿
新十二月七日

諸判定處　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠

▲一白の人　新事の計畫は尤も宜しく前途の發展を呈す▲二黑の人　力量を思はず大望のみを企つれば失敗あり▲三碧の人　家居して安靜を保つが吉兎角危險起り易し▲四綠の人　分を守りて忠直なれば次第に良好なりとす▲五黃の人　兎角見込外れを生じ易き日訴しやう爭論亦注意▲六白の人　進退共に變ひの伴ふ日舊態維持が安全第一▲七赤の人　苦を忍びてたわむことなく努むれば終局は吉▲八白の人　諸事効なく進むに凶なり病厄盜難失物注意▲九紫の人　意想外の發達を遂ぐることあり精勵すべし

內鄕の新聞折込廣告は
山口新聞店
電話(綴)二番に御通知下されば店員が取りにまいります。

安價で効果的な
天然加里肥
最も適應する作物！
蔬菜、馬鈴薯、里芋、しやうが類
◎茄果類ではトマト、茄子の如き比較的病害に弱き作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから
◎如何に施用しても土壤を惡變する虞は絕對にありません
一俵　參拾錢(大量取引は特に割引致します。)
製造販賣　金成國雅
平町鎌田　電話六八八番

貨物自動車の御用命に應じます。

磐城家庭婦人會
皆樣方の御手不足を補ふ家庭婦人會が出來ましたどうぞ御試用下さいませ。
親切。迅速。
◎會員募集(入會金ト維持費ハ申受マセン)
平町字田町五(元郵便局ウラ)
駒井ヒデ
電話三九九番(呼出)
…會員募集…

ラヂオとデンキの御用命は
何んでもフルヤマに
古山電氣商會
平町警察通り(呼電)一六六

日章旗の入つた
機關銃印の自轉車
日章旗の如く輝く特長
一、全部鋼鐵、特種壓搾、製
二、自働注油、防水防塵、裝置
三、ヘッド及びホークのスプリング作動
斯界に比なき數多の特長を有するが故に耐久力は普通車の五倍以上、而かも惡路でも振動を感ぜす。その輕快さは本車のみ有する特長で製作者の苦心の存する所であります
機關銃印の自轉車(宣傳中)　五十八圓
戰車の如く頑强だと御評判を賜りました。
フタバ式超重量用リヤカー(宣傳中)　廿五圓
永年修繕費のかゝらぬ兩車の御利用を切に御願ひ申し上げます。
フタバ商會
平・新川町・月見橋際

二女雅子儀(行年二十二)永らく病氣の處療養不相叶十二月一日午後五時五十分死去致候間此段謹告仕候
追而十二月七日午前九時五分上野驛發鄕里平町長橋町性源寺に於て午後二時三十分より三時迄佛式を以て告別式執行可仕候
十二月三日
東京市本鄕區駒込神明町三六七地
父　中野甲藏
兄　中野篤親
親戚總代　白井菊造
友人總代　萩原申八
　　　　　佐藤作平